

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたん



第89号

平成20年

11月24日

筆先に気持ちを溜めて

藤野紘霞さん



「一生、字を書いて行きなさい。」

藤野青果店の藤野紘霞さん（藤野たか子さん（72歳））は父に導かれて、物心

ついたころから割り箸の先ややきとりの串の先を割り、筆代わりにして字を書いてすごしてきました。

かつて「読み書きソロバン」として寺子屋などで昔から習字は指導されてきました。中国では書法と言われている書道の造形芸術です。昭和時代からの大規模な書道展の開催により、書道が近代芸術としての地位を確立してきました。中国では初等教育で指導され、日本では小学3年生以上の授業では毛筆により指導されています。書道学科を設置している大学も多くあり、高校でも専門コースをおいているところがあります。

「まずは自分の学ぶ姿を」

藤野さんが高校卒業後一時中断してしました書の世界に戻ったのは、37歳の時でした。息子さんの書道の先生を探しているうちに、自分の書いている姿を見て学ぶだろうと通信添削で再び字を学び始め

ました。1ヶ月で半紙を千枚使って書いていました。思うような字が書けないと、1週間寝ないで書いていました。

「漢字は戦い」

「かなは1、2ミリの戦い」

「細字は1本1本の線を組み立てて書く」

かな、漢字、細字それぞれ年1回の昇級試験を受けて、師範↓成家（せいけ）となり、技量を高めて賞を取り3種目制覇して理事になりました。東京新聞主催「東京書作展」には5回目から入選しています。

松本清張も顧問を務めた「東京書作展」

は真に実力があり、研鑽を怠らない全国埋もれた新人を発掘する公募展です。6年前から、藤野さんは当番審査員として名を連ねています。

「半紙が基礎」

縦205cm×横70cmに作品は書きますが、半紙が基礎になります。大きな字を書くにはまず小さな字が書けないと書けません。

「筆の先に溜まる」

舞台人は、舞台の演技でその人の全てが見えてくると言います。気持ちに乱れがあると気持ちが筆先に溜まります。書かれた字を見て、その人がどのような状態で気持ちで書いていたか、書いた人の性格まで見抜くことができる藤野さんは

仰っています。

「時間が足りない」

書いても書いても先が見えないと青果店の傍ら暇があれば紙に向かつて書いている藤野さんの睡眠時間は3時間です。

ボランティアで今20人教えています。お弟子さん達は仕事が終わってからマンツーマンで指導を受けに来ます。午後10時からご夫婦で来る人もいます。今回の「東京書作展」ではお弟子さんの中から、豊田浩然さん（35年歴） 齊藤雅峰さん（20年歴、町屋のんき庵） 山野井秀扇さん（8年歴、ジョイフル三ノ輪近く、三松屋製麺）の3人が優秀賞を受賞しています。もちろん、藤野さんの作品も展示されています。

「紙の上に筆を下ろした安心感、すつと入り込める快感はお金には替えられない」

藤野さんの根のある芸術作品から、あくなき探究心、前進するパワーを感じることができません。「東京書作展」にいらっしやいませんか。



第30回「東京書作展」

主催：東京新聞

後援：文化庁、東京都

平成20年12月2日（火）～7日（日）

サンシャインシティ文化会館2階

東京都豊島区東池袋3-1-4